平成３０年度伊勢原市立子ども科学館運営協議会会議録

平成３０年８月２９日（水）午後２時から、伊勢原市立子ども科学館運営協議会を子ども科学館第３会議室で開催した。

１　出席した委員は次のとおり

会　長	和　田　勝　久
副会長	渡　邉　壮　俊
委　員	磯　部　道　江
委　員	榎　並　幸　与
委　員	藤　尾　克　彦
委　員	三　國　登美江

２　会議説明のための出席者は次のとおり

教育部長	谷　亀　博　久
図書館・子ども科学館長	麻　生　ひろ美
図書館・子ども科学館係長	諏訪間　　伸

３　会議書記は次のとおり

図書館・子ども科学館研修指導主事	塩　川　康　臣

４　会議次第

【委嘱式】

１　委嘱状の交付

　　自己紹介

２　教育部長あいさつ

【運営協議会】

１　開会

２　役員の選出について

３　会長あいさつ

４　議題

(1)　平成２９年度子ども科学館の事業報告について

(2)　平成３０年度子ども科学館の事業計画について

(3)　子ども科学館フェスティバル２０１８の実績報告
　　及び夏休み期間中のイベント等報告

(4)　その他

(5)　閉会（副会長）

５　公開の可否
　　公開

６　傍聴者
　　なし

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－

午後２時　開会

１	委嘱状の交付	教育部長より委嘱状を交付
２	委員自己紹介	各委員より順番に自己紹介
３	教育部長あいさつ	事務局員より順番に自己紹介
４	会長の選出	和田勝久氏が会長に選出
５	あいさつ	和田会長よりあいさつ

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－

○事務局　　ただ今から、平成３０年度伊勢原市立子ども科学館運営協議会を開催する。

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－

１　議題
　（１）　平成２９年度子ども科学館の事業報告について

○会　長　　事務局から（１）平成２９年度子ども科学館の事業報告について説明をお願いしたい。

○事務局　　（配布資料に基づき説明する。）

○会　長　　事務局からの説明に対し、何か御質問、御意見があればお願いしたい。

○委　員　　プラネタリウムの番組について、入館者の増減に関係してくると伺っているが、番組の選定はどのようにおこなっているのか。

○事務局　　番組の選定については、配給会社の番組を年間で契約し、選んでいる。その中で、より子ども向け、学習番組向けのものを、当館職員で、相談して選んでいる。さらに、予算の範囲内でよりよいものを選んでいる。キャラクターの番組は、知名度も高いが、その分契約額も高くなっている。今年度については、「ちびまる子ちゃん」を選び、予算内で契約できた。現在、かなり人気のある番組となっている。

○委　員　　以前、人気のあった番組についてだが、その番組は、理科の天体に沿った内容の番組だった。現在、科学館に導入されている番組も、ネームバリューに関わらず、内容は、充実しているのか。

○事務局　　以前の番組は、「惑星」の学習が理解しやすい番組だった。現在導入している番組は、「星や惑星」について、「銀河」について学習できる番組となっている。当館では、キャラクターの知名度だけで番組を選ぶのではなく、天体の学習ができるものを選んでいる。

○委　員　　現在、投影されている「ちびまる子ちゃん」は、内容として十分なものなのか。

○事務局　　星について、充分に学習できる番組となっている。

○委　員　　キャラクターだけでなく、内容も伝えられるように周知していってもらえるとよいのでは。

○事務局　　当館では、ポスターなどを作成したり、配給会社からの番組紹介を活用したりして周知をしている。実際に、番組を見た方から好評価をいただいている。

○委　員　　夏休みに科学館のお手伝いをした際、来館した方に声かけをして気づいたことだが、地域の方、特に未就学児の母親の利用が多かった。しかし、母親同士の会話が弾みすぎて、子どもの様子を見ていない親御さんもいたのが気になった。高学年の子どもになると、親と集合時間等を決めて、子どもたちだけで利用している子どもたちが多かった。その点では、子どもだけで利用できる科学館はとても良い施設だと思う。また、ビー玉あそびの機械が故障したとき、子どもたちはゲーム感覚で、故障した原因を思考する一面を見ることができた。これも大切なことだと感じた。子ども科学館の利用者は減ってきていると聞いていたが、夏休みにお手伝いをした際は、多く利用されていたのではないかと感じた。科学館のポイントカードの利用説明が、子どもにもわかりやすく表示されるようになったのは、子どもだけで来館したときに有効だった。気になる点としては、科学館の照明が暗いところがあり、小さな子どもが怖がる個所があったので、改善を考えてもよいかもしれない。

○事務局　　委員は、当館の支援会員として、夏休みに関わらずボランティアとしてお手伝いをしていただいている。貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

○委　員　　プラネタリウムの番組の契約額は、どれくらいの予算があるのか。また、番組はいくらぐらいなのか。

○事務局　　年間としての予算額は、５００万円としている。年間５本の番組を導入する計画を立てている。番組１本は、１００万円程度だが、知名度の高いキャラクターのものは１本２００万円の番組もある。５本の番組を導入するために、配給会社と予算額の中で、番組を導入している。

○委　員　　入館・観覧の歳入についてだが、どのように使われているのか。

○事務局　　科学館の各事業に充てている。プラネタリウムで得た歳入に関しては、プラネタリウムの事業費として充てている。そのほかの歳入に関しても、科学館の事業費に充てている。

○会　長　　他に御質問はないか。

（質問なし）

（２）平成３０年度子ども科学館の事業計画について

○会　長　　事務局から（２）平成３０年度子ども科学館の事業計画について説明をお願いしたい。

○事務局　　（配布資料に基づき説明する。）

○会　長　　事務局からの説明に対し、何か御質問、御意見があればお願いしたい。

○委　員　　ロボットフェスティバルについて、どのような内容となっているのか。また、対象年齢はどれくらいか。

○事務局　　事業を依頼した講師によって決まっている。科学館では、パソコンを用いて、ロボットへ信号を送るプログラミングや、ロボットに組み込まれているＩＣチップへ入力するプログラミング学習などが実施されている。対象年齢については、小学生から中学生までが対象となり、小学校３年以下だと、保護者同伴で実施している。主に、小学校中・高学年の子どもが参加している傾向がある。２０２０年に、プログラミング学習が導入されるということで、「プログラミング」という言葉に、特に親御さんが反応して、事業に参加していることが多い。また、プログラミング学習に参加している子どもは、ロボットに対して理屈よりも体感から体験し動かしていることが多いので、低学年の参加も見込めると考えている。

○事務局　　学校でも「プログラミング学習」という言葉は、徐々に話題になっていた。今回、夏のロボットフェスティバルの事業を経験したが、多忙化が進む学校教育現場の中では、どのようなプログラミング学習ができるのか、具体的に実践していくには、時間と労力がかかると感じた。また、１、２時間で身につくような学習ではないと考えているので、どこまで子どもたちの力を伸ばすことができるのかが課題である。年間の学習指導計画、学校行事の中で、計画的にプログラム学習を組み込んでいくのは大変な労力だろうと感じている。

○委　員　　ロボットという具体的なものがあるので、どのように動いたなどとわかりやすい学習であると考える。大学の観点からするとデータサイエンスという分野になっていくと思うが、まだその分野では、人材・費用等含めて十分そろっていないのが現状である。子どもは、パソコンを触ることに対しては抵抗なく取り組めると思うが、どう与えていくのかは、今後も考えていく必要がある。

○委　員　　科学館に、子どもたちが気軽に触れられる、動かせるロボットが常にあれば、いいのではないか。

○委　員　　夏休みのロボットフェスティバルの事業で、ロボットと話すことができる体験事業があった。そこで、子どもたちも大変興味深く触れ合っていたのが印象的だった。そのことも踏まえて、常設できたらいいなと感じた。

○事務局　　市内の企業に依頼したロボットだったが、企業によると、目安として本体は、およそ２０万円ほどだが、しかし、維持費としてアプリの追加や更

新、メンテナンス等で、年間で数十万円程度かかっているとのこと。また、５年ほどで権利が終わってしまうそうだ。しかし、子どもたちのロボットへの関心の一歩としては、魅力あるものである。

○委　員　　ロボットに関するプログラミング学習を考えていくと、一人ひとりにその学習に必要な機材が必要になってくるだろう。そこで、以前科学館で実施されていたレゴブロックを使ったプログラムキットがあったと思うが、それは活用できないのか。

○事務局　　キット自体は、一人４万円のキットが必要になる。それに加えてデータを打ち込むパソコンが台数分、別途必要になってくる。数年前に、パソコン室に常設したパソコンを撤去したため、入力する機能がなくなったため、事業として実施しなくなった。

○委　員　　パソコンがなくても、プログラミング学習ができるようなものがあるといい。

○事務局　　新しい事業になってくるので、相応の費用がかかってきてしまう。しかし、数年後には、学校単位で、それらの機材を用意していくと考えられるので、科学館が先駆的なものとして何か、事業として取り組むことができたらいいと考えている。

○会　長　　他に御質問はないか。

（質問なし）

（３）子ども科学館フェスティバル２０１８の実績報告及び夏休み期間中のイベント等報告

○会　長　　事務局から（３）子ども科学館フェスティバル２０１８の実績報告及び夏休み期間中のイベント等報告の説明をお願いしたい。

○事務局　　（配布資料に基づき説明する。）

○会　長　　事務局からの説明に対し、何か御質問、御意見があればお願いしたい。

○委　員　　科学館は、フェスティバルや夏休みの特別なイベントだけに限らず、常に最先端のものを推進し、取り組んできてはいると思う。しかし、それでも時代とともに、子ども科学館としての役目が変わりつつあるのかと感じている。これから新しい学習が入ってくる中で、どう対応できるのか考えていく必要がある。これまでも続けてきている夏休み自由研究相談室を利用した子どもたちや、科学館の事業に飛び入りで参加した子どもたちがきっかけとして、その子たちの将来の職業に子ども科学館での経験が結びついているという良さ、役目というのは、引き続き大切にしてほしいという思いである。時代のニーズや予算のこともあるが、科学館の立ち位置を大切にしていきたい気持ちがある中で、今後の科学館がどうなっていくのかは、非常に気になるところである。

○教育部長　今後の公共施設全体計画の中で、検討していく課題である。

○会　長　　他に御質問はないか。
（質問なし）

（４）その他

○会　長　　事務局から（４）その他　子ども科学館の新聞記事等についてあわせて説明をお願いしたい。

○事務局　　（配布資料に基づき説明する。）

○会　長　　事務局からの説明に対し、何か御質問、御意見がありましたらお願いしたい。
（質問なし）

○会　長　　以上予定された議事は終了したので、以降の進行につきましては、事務局にお返しする。

○事務局　　本日の意見は、事務局で、会議録を作成したいと思います。閉会の挨拶を、副会長お願いする。

○副会長　　科学館３０周年ということで、職員さん一同、盛り上がっており、今後も続けてほしいが、最近感じていることは、金銭面である。入ってくるお金を有効活用し、今ある科学館の設備に、少しでも最新のものへと投資できたらいいなと感じている。来年もよろしくお願いする。

－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－

○事務局　　以上をもって、平成３０年度第１回伊勢原市立子ども科学館運営協議会を終了する。

午後３時０５分閉会

－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－

《配布資料》

資料１　　平成２９年度子ども科学館の事業報告について

資料２　　平成３０年度子ども科学館の事業計画について

資料３　　子ども科学館フェスティバル２０１８の実績報告
及び夏休み期間中のイベント等報告

資料４　　子ども科学館の新聞記事等について